ホクコーブラシンキラップフロアブル

■種 類 名：エチプロール・フェリムゾン・フサライド水和剤
■有効成分：エチプロール----------5.0%
フェリムゾン----------15.0%
フサライド----------15.0%
■PRTR法指定物質：エチプロール［第２種］----------5.0%
フェリムゾン［第１種］----------15.0%
フサライド［第１種］----------15.0%
ﾎﾟﾘ(ｵｷｼｴﾁﾚﾝ)=ｱﾙｷﾙｴｰﾃﾙ［第１種］----------1.0%

■登録番号：第22963号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2011.06.08
■性　　状：類白色水和性粘稠懸濁液体
■有効年限：３年
■包　　装：500ml×20本
１ﾘﾄﾙ×12本(地域限定、2年)
5ﾘﾄﾙ×4缶(北海道のみ、1年)
20ﾘﾄﾙ×1缶(北海道以外、1年)

【特長】
➢ いもち病に対して予防効果と治療効果を有するブラシンと殺虫剤キラップを混合したフロアブル剤。

【適用内容】(2015 年 10 月末日現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病 カメムシ類、ウンカ類	8 倍	800ml/10a	収穫 14 日前まで	２回以内	無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布
		1000 倍	60～150 ﾘﾄﾙ/10a			散布
	いもち病 カメムシ類	300 倍	25 ﾘﾄﾙ/10a			

エチプロールを含む農薬の総使用回数	フェリムゾンを含む農薬の総使用回数	フサライドを含む農薬の総使用回数
２回以内 (移植時までの処理は１回以内)	２回以内	３回以内

【効果・薬害等の注意】
● 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
● 本剤は長期間貯蔵しておくと分離するので、使用の際は容器をよく振って均一な状態に戻してから所定量を取り出すこと。なお、希釈する場合は、所定量の水に加えてから十分撹拌すること。
● 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけすみやかに散布すること。
● 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
◆ 散布は各散布機種の散布基準に従って実施すること。
◆ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
◆ 作業中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他装置の十分な点検を行うこと。
◆ 散布薬液の飛散によって他の動植物及び自動車やカラートタンの塗装、大理石や御影石等に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、また散布区域・周辺の諸物件に十分注意する。
◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
◆ 散布終了後は、次の事項を守ること。
・ 使用後の空の容器は放置せず適切に処理すること。
・ 使用残りの薬剤はしっかりと密栓し、必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
・ 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は適切に処理すること。
● 本剤を希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
● たばこ、けいとう及びだいず、あずき、いんげんまめの幼植物には薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
● 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。桑にかかった場合には 25 日以上経過してから給桑すること。
● ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
◆ ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。無人ヘリコプターによる散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
◆ 関係機関(都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
● 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】
❖ 誤飲などのないよう注意すること。　誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせること。　本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けること。
❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。　眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。　付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
❖ 薬液調製時及び散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン･長袖の作業衣などを着用すること。　作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼･うがいをするとともに衣服を交換すること。
❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

北興化学工業株式会社